

# 街灯から見る東京駅

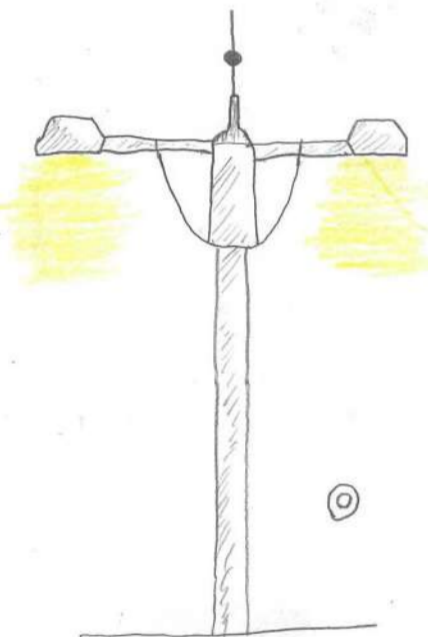
17N1031 川口大希  
 17N1108 山口駿輔  
 17N1114 吉田翔真

## 予想

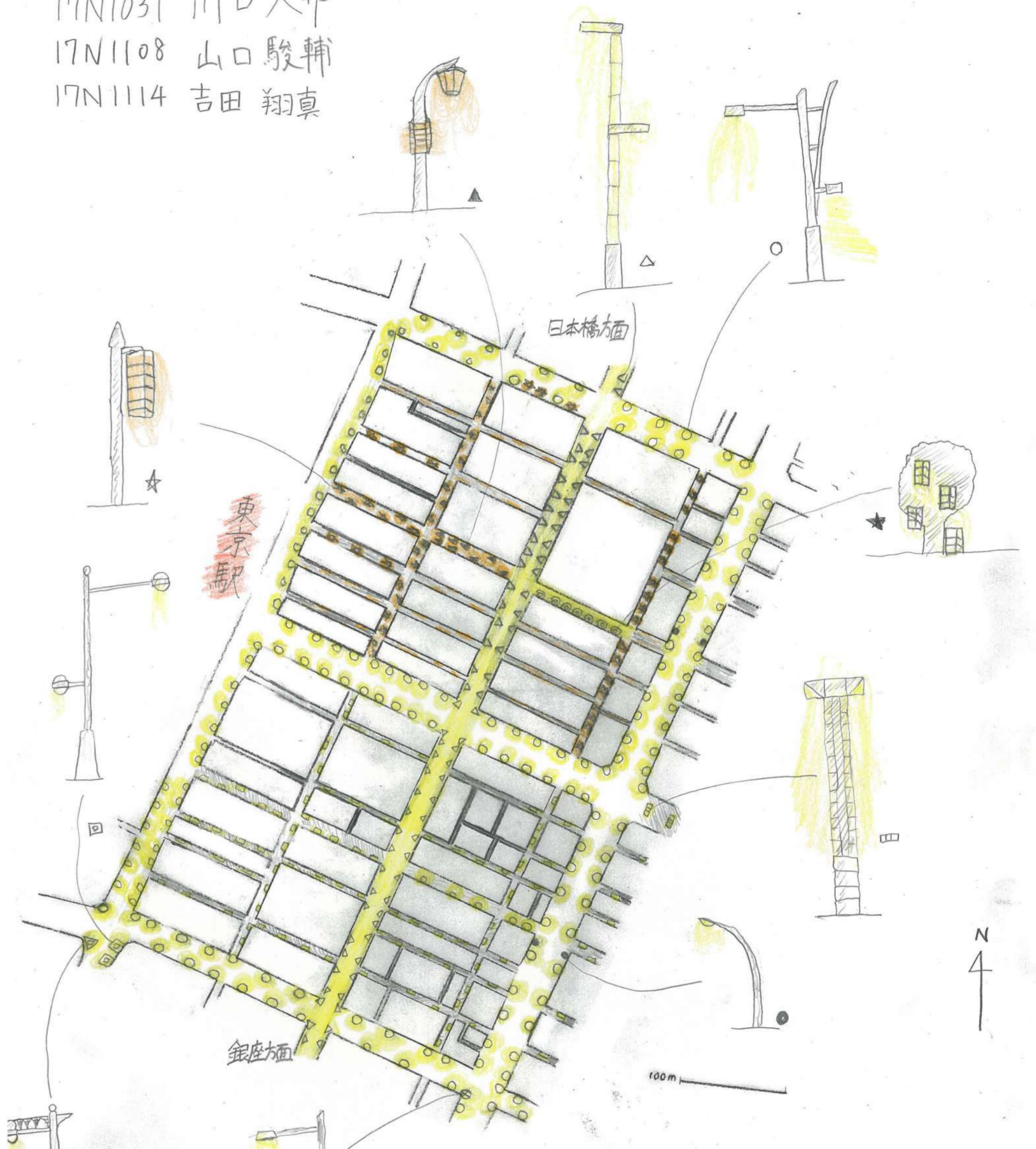
エリアごとに街灯の形や色が決められていて、東京駅周辺はいくつかのエリアに分かれていて、そのエリアごとに同じ街灯が見えるのではないが、単純に広い道路は明るく、逆に狭い道路は暗いのではないが、また、その街灯の形や色によって人の動きにも変化が見えるのではないか。

## 東京駅周辺を選択した理由

東京駅は1914年開業し長い歴史をもっている。その歴史の中で、街と共に発展してきた。皇居が近いこともあり、都市計画にあたる街灯の配置などもそれに伴い計画されたものであるのではないかと思い調べることにした。また、駅周辺を歩く人数が多すぎず少なすぎずで人の動きが分かりやすいので調べるのに最適だと思った。



- 黄色 白色の光
- オレンジ オレンジ色の光
- 水色 青に近い白色の光
- 色の領±或 光の強さ



結果

- ・エリアではなく道路ごとに街灯の種類が変化することが多い傾向にあった。
- ・自転車がよく走る広い道路ではほとんどが白い光だった。
- ・広い道路でも狭い道路のほうが全体的に暗いイメージだった。
- ・打、暗い場所にはゴミが多く見られた。
- ・暗い道の方が人の動きも遅く感じた。
- ・丸の内口方面の方がオレンジ色の街灯が多く、八重洲口方面と比べて静かだった。

## 考察

街灯は道路の動線の一部となっていて街灯の明るさ、道のほうが人が多く集まりやすいことが分かった。また、人目の少ない暗い道ほどゴミが多く捨てられる傾向にあることも分かった。皇居周辺はオレンジ色の街灯、車の走る道路は明るく見やすい白い光の街灯を用いておりその場所の雰囲気や用途に合わせて作られているのかもしれない。人の動きや感じ方の変わる街灯の役割は大きいと思われ、八重洲口より丸の内口の方が、歴史的な観点を重視して趣きのある街灯の色と形になっていた。